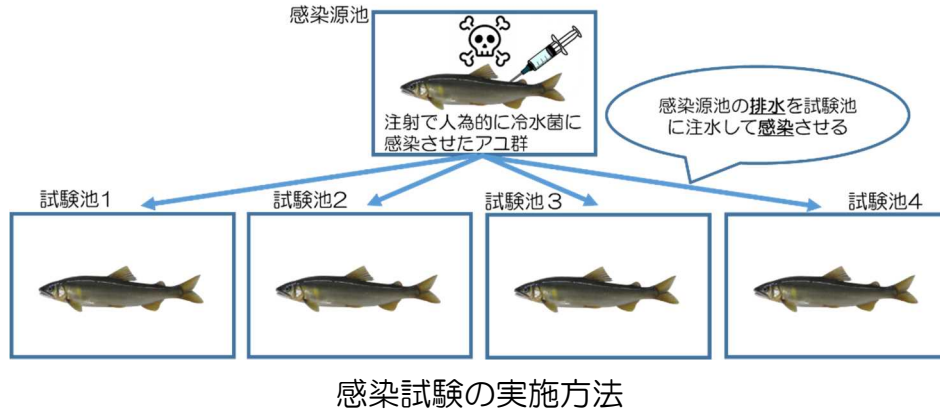


アユ冷水病感染試験を実施しました

アユ冷水病は現在も養殖場や河川漁場で大きな被害をもたらしています。水産試験場と栃木県漁業協同組合連合会では、県産アユの冷水病に対する抗病性を感染試験によって評価し、生き残りの良い系統を生産の軸にする方法で、冷水病の被害軽減を図っています。今年で3年目となる栃木県産アユの冷水病感染試験の結果を紹介します。



試験を実施した系統

1. とちぎ系（ダム湖系と七色ダム湖系のハイブリッド）
2. 新とちぎ系（那珂川系と七色ダム湖系のハイブリッド）
3. 那珂川系（F4）
4. ダム湖系（鶴田ダム湖系のF11）

※新とちぎ系は試験開始時に冷水病保菌を確認（PCR検査）

試験条件

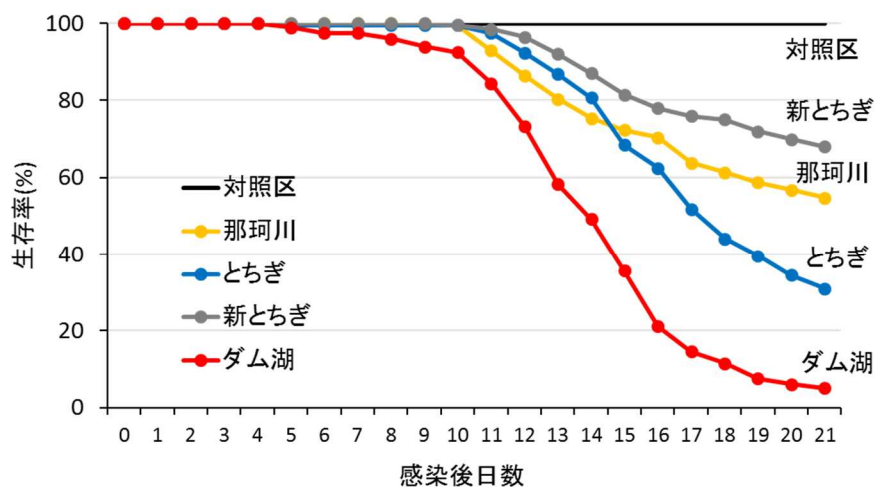
試験期間：令和2年5月13日～6月3日（菌接種後21日間）

水温：13.7～21.3℃

使用した試験池：15m²コンクリート角池

供試尾数：100尾/池（感染源池 約3,000尾/池）、各系統2試験区設定

結果



系統別生存率の推移（各系統2試験区の合計）

七色ダム湖系を片親として生産したハイブリッド、とりわけ七色ダム湖系と那珂川系（いわゆる海産系）のハイブリッドである新とちぎ系の抗病性の高さが際立ちました。これらの結果を受けて、今秋、県漁連では新とちぎ系、とちぎ系を主に生産しています。